特別会計

国民健康保険会計

歳入　7億6,048万6千円
歳出　7億622万8千円

老人保健会計

歳入　4億3,045万円
歳出　4億3,034万2千円

No. 5
家庭教育シリーズ

お父さん、僕反抗期かな!!

先日、中一の子をもつ母親から、こんな相談を受けました。

「最近特に私の言うことを聞かなくなり、なにかとすぐ『うるせえな』と反発する。小学生の頃は素直で、学校の様子などなんでも話してくれたのに、最近では全然話さなくなり、ちょっと注意すると『そんなの関係ないだろ』と反抗的態度をとるそのくせ朝起きて夜床につくまで、親が一つ一つ話をしなければ満足に何一つできないくせに」本当に困っています。

中学時代は、精神的に自立しようとする時期で、それが親への反抗という形で現われ「第二反抗期」とか「心理的離乳期」などと呼ばれています。

学校の様子はどうかと話しかければ「うるせえな。」「なんです。その言葉遣いは」と注意すれば一段と語気を荒げて「うるせえな、関係ねえだろ」と反抗します。親にしてみれば、自分の子どもが次第に離れていってしまうような寂しさとやるせなさ、悔しさ、いったい何を考えているのだろうという不安にかられます。そこで、ますます口出しする機会が多くなるために子どもはどんどん反抗的態度をとるということになります。

身体は大きくなっても、精神的にはやっと離乳したばかりの幼児性を持っているという、アンバランス状態が、この年代の子どもです。

親の干渉を嫌い、周囲の権威や慣習に抵抗しつつ、自分を確かめ、自分を見つめる「もう一人の自分」を意識し、いわゆる自我意識が発達する時期でもあります。

従って、**自分を認めてほしいという欲求**——自己主張——が強くなり理屈ぽっくなり情緒的に不安定になり、孤独感や劣等感にとらわれやすくなり、甘えの欲求も強くなるので、親は、そこを理解してあげなければなりません。

そのためには、思い切って**自分の子どもを信頼することです。**口を出したり、手を出したりしないで側面からじっと見てあげることです。

しかし、子どもの甘えからくるわがままは、間違った言動に対しては、親として黙っていてはいけません。頭ごなしに怒るのでなく、子どもの言い分によく耳を傾けてやること、そして、世の中で一人立ちしていく時に通用するものではないということを、根気強く説得していくことを忘れないでほしいものです。

大きな花も美しい
　でも
小さい花も美しい
大きな花も、小さい花も
赤い花も　青い花も
　それぞれに
せいいっぱい自分の花を
咲かせているから美しい

小さい花だからといって
卑下してはいけない
小さい花だって
けんめいに咲いているから
　美しいのだ
小さな花だって
ほかのだれもが
咲かせることの
　できない花を
せいいっぱい
咲かせていこう

家庭教育指導員
大木國臣